

# OPINION オピニオン・スライス SLICE

文楽・義太夫節 太夫、  
1989年 重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定

## 七代目 竹本住大夫 さん

### — 芸歴は

知らん間にもう88になりましてな。文楽に入って67年です。

67年やって、まだ迷ってまんねん。奥が深過ぎて切りがおまへんな。私、覚えが悪うて不器用でね、声が悪うてね。それでよかった、それで今日まで来れたと思うんです。

### — 大切にされていることは

何でも日常の対応、言葉遣いが大切です。芸では絶対100点満点は取れんので、技法を覚えて基本に忠実に素直にやってたら、自然と60、70歳になってコケが生えてきます。若い時分から上手にやろう、器用にやろう、そんなこと思ってたらあきまへんな。まず稽古を十分に積んで、稽古で怒られ、舞台へ出て恥かき、舞台からおりて怒られ、その積み重ねですわな。

### — 稽古はどのように行われるのですか

自分の師匠と自分の役が済んだらあとは自由時間ですわ。その自由時間をどう過ごすかで差が出てきますね。私はね、初めは豊竹古靱太夫、後の山城少掾に弟子入りしたんですけど、一遍も稽古してもらったことない。天皇陛下みたいな人で、そんな孫に何で稽古してくれまんねん。そのかわり、文楽いうのはどこにでも稽古に行ける。家元制度がないから、竹本でも豊竹でも三味線弾きでも、自分がこの人と思ったら方々行くんですわ。先輩方は、どんなに忙しくても稽古してくれる。月謝はとらないので、ただで稽古してもらうかわりに、家や芝居の用事で奉仕するんですわ。行きしなは、ああ怖いな、絶対怒られるなって、ご飯がどの通らんとときがあるんですよ。そやけど、思い切って行って、思いっきりばんと息出したら、「それでええねん」って言われます。思い切り声を出すんやなしに、深呼吸して息をぱっと出した。若い時はそれでいいんです。でも、もう一遍って

言われたら中々やられやしませんねん。ほんでまた怒られる。そやけどね、済んだ後で先輩の話やら浄瑠璃の話やら、いろんな話聞かせてもろうてね、帰りしなはいつも来てよかったなと思います。

ほんで、自分が済んだって、ほかの人が稽古に来てたら、その稽古を聞く。人が怒られてるのを聞いてるとよう分かりまんねん。何でもそうですけど、一から教えてもろうてたらあきません。人の舞台を観たり聴いたりしたり芸を盗んで、それを肥やしにして稽古に行って。自分がよう本読みして、師匠の前で怒られ、帰ってきてよう本読みして復習してね。

僕は声が悪いもんやから、眉間から声出していこうってやかましい言われた。それがやっとできたときに、大先輩の三味線弾きさんが、「おつ、おまえ鼻使えるようになったな」って言われて、それが自信になりますね。10代目の弥七師匠に弾いてもろうてる時、「おもしろない」がやってるうちにね、「ああ、ちょっとおもしろなってきましたな」って言われたらね、頑張ろうっていう気になります。そういう言い方で、「おまえよかったぞ」とは言うてくれまへんわ。弥七師匠によう弾いてもろうたんですけど、「伊勢音頭恋寝刃」という夏の狂言で、毎日舞台からおりてきてああやこうや言われて、千秋楽の日に、「ええい、怒られるのも今日でしまいや、思い切りやっつたれ」と思ってね、舞台に出てばあつとやったんです。自分では悩んでね、ほんなら、おりてきて「今日みたいにやんなはれへんかいな」って言われた。思い切ってやられへんようになんのやろうね。

ほんで、人によってみんな教え方も違います。習いに行く者は迷いますわ。そこで迷いますけども、後になって、その迷ったことがええ勉強になります。教えるほうにしたら、ここまで来たらもう一つ高いところ、深いところを教えてや

ろうって、行くたびに違うことになってくる。それをこつちが分かれへんもんやから、昨日あない言うったのに今日は違うやないかって。それは後で、あつ、あのお師匠さんが言うてはるのとはこういう教え方やなって、それが勉強になりましたね。今はかわいそうにね、習いに行くところがおまへん。頼りないのが多い。若い者も食らいつきようが足りまへんで。でも、教えるほうも、もっと親切に厳しく教えてやらないかんのですけど、水臭いですわ。僕は、よその弟子もうちの弟子と同じように怒ります。「給料もろうてんのやろ。給料返せ。お客さん入場料払うてはんねん。そのうち何ぼかはおまえもろてんねん。素人とちゃうで。」って。

### — ご苦労なされた時期もありましたか

文楽は、昭和24年3月に二派に分かれました。終戦直後、衣食住が不自由してたんで、お客さんもあんまりおまへんわな。だから、給料は安いわ、松竹は赤字やわ、それで生活待遇改善を申し出たら断られて、それで二派に分かれたんです。1つのものが2つに分かれたら手薄になって、力以上の配役してくれた。それが勉強になりましたね。昭和24年3月～38年3月までの14年間はほんまに、上の人も気の毒でしたね。今みたいに飛行機や新幹線がないから、地方公演行くのも夜行の鈍行で揺られて行きまんねん。毎日、場所が違います。大抵3～4時間汽車に揺られて、体は疲れてくるわ、声は枯れてくるわ、そういう中で舞台へ出て、声の使い方、浄瑠璃の語り方を覚えていくんです。コンディションのええときにええ芸ができるかいうたら、そうやない。コンディションの悪いときに舞台へ出て、抜けつくりついろんな声遣い、腹遣い、皆覚えていくんです。今はそれが無い。今の若い者は気楽過ぎる。私、それ言うて怒るんですわ。好きで入ってきてんやから、そやったらもっと好きになつたらええ。文楽

は修行するところ、勉強するところ。そこで先輩方、お客様に認められて、そしたらたとえ少のうでも給料が上がっていく。自分から相場つけるもんやない。何ぼ金くれ言うたって、絶対くれやしまへんわな。うちら日給ですからね。休んだらくれやしまへん。そやから、少々熱出そやが舞台に出てましたね。今、貧乏せい言うても、貧乏っちゅう言葉が通じまへんわ。親が財産分けしてくれる、嫁はん共稼ぎや。ほんなら、「おまえ、生活気楽やったらもっと芸に打ち込め」って言うんですわ。昭和35年に「竹本文字大夫」を襲名して、それからですね、ちょっと楽になってきた。

—— 「大夫」というのはどんな役回りですか

文楽の大夫は、一人で老若男女、み

んな語り分けせんなん。「声」では絶対変われませんねん。深呼吸して「息」で変えていくんです。声で変えようとして声色になったらあきまへんねん。例えば人形の顔、首（かしら）って言いますけど、その首に合うた発声法をしてそれで浄瑠璃語らんと、べっぴんにとかええ男に聴かそう、そう思ったらあきまへん。そこは浄瑠璃の一番難しいところでん。僕らはお客さんに情を伝えるのが使命ですから。情を伝えるには40～50年かかりますな。

—— 長いですね

はい。うち定年おまへんもん。

発声を地声でやったらあきまへん。というて、声をこしらえたらいやらしなる。語り分けは吐く息、吸う息、これで人物が変わる。嘘をまことしやかにやるのが

芸です。本当のことを本当にやってたら、芸にならしまへん。

芸をやるときは、その人物になり切る一歩手前でとまるんです。なり切ってしまうたらほかの人物が語れない。うちの場合にはト書きもあるし、役者でいうセリフもあって、一々その人物になってたら他が語れません。だから、泣くのも笑うのも嘘です。嘘やけど、それらしい顔をして、それで息で変えていく。昔、吉田文五郎という人形遣いの名手がいて、「文楽をはやらそうと思ったら大夫がしっかりしたらええねん。大夫がしっかり浄瑠璃語ったら、三味線も弾きよ、人形も遣える、お客さんも喜んでくれる。勉強しいや」って言われました。ほんまにそのとおりですね。だから、どんな偉い三味線弾きさんでも、やっぱり大夫が先です。





### —— 子どもの頃は

産まれたところはキタの新地。今の新地と違いまっせ。その時分の新地っていうたら、料亭ばかり。夕方になったら芸妓はんが皆銭湯行ったり、昼間は稽古して三味線や太鼓や聞こえますわな。自然と私は何となしに好きになってしもうてね。西天満小学校に行っていて、今でいうたらアメリカ総領事館ビルの並びに住んでまして。もう色町と目と鼻ですわ。うちのおふくろも元芸者でしたからね、私に三味線弾いて、わけは分からんでも俗曲なんかを教えてくださいまして。おやじさんが文楽に行くのにつづつついて行っていました。歌舞伎、寄席、映画、いろんなものを観ました。そやから、勉強でけしまへんねん。小学校に行ってる時に母親が、今日は歌舞伎座に行く言うてははよ帰って、今日は浪花座、明日は何って、学校には「法事や言うとき」って。芝居から帰ったら10時半、11時です。朝7時に起きて学校へなんて行かれへん。寝過ぎたら「休みいな」って。参観日にうちの母親が行くと、「おたくはよう法事がありますね」「ええ、親戚が多いもんでして」って。そんな親のもとで勉強できますか。

小学校を卒業するときに、おやじに文楽の大夫になる、文楽に入りたいと言うと大反対でね。修行は厳しい、芸は難しい、お金は儲からん、だから学校行けって。それで旧制の高校（浪商）へ行きました。高校卒業するときに、また大夫になる言うたら、今戦争が激しい、大夫になったら工場へ連れていかれるから、上の学校行けって。それで、今の近大の前の大阪専門学校いうのの受けたらまたま通ってね。あと、私は野球が好きやから、どうしても白球が握りとうて野球部へ入れてもろうたんす。関西地区の予選が甲子園であって、甲子

園へ連れていってもろうてね。私は補欠のキャッチャーでしてん。正捕手がプロテクターやらつける間、ホームで受けてました。だから、文楽の大夫で甲子園の土踏んだのは私1人。これ、自慢できまんねん。

戦争で卒業が皆繰り上げになって、昭和19年9月に卒業して、12月に兵隊へ行行って。香港に行く予定が上海まで行行って、船がやられるもんやから、蘇州に転属に。結局、13カ月兵隊にいましたね。蒋介石は偉い人でっせ。僕らを絶対迫害をせやしません。今で言う勤労奉仕で田畑を耕したりはしたけど、迫害を受けたことはなかったです。それやのに、三度食事もろうてて栄養失調になってね、脚気になって3カ月入院したんです。その軍医がええ人でね。本隊がはよ帰れるんやったら本隊に帰らせたら、病院がはよ帰れるんやったら病院にいろと。結局、病院船で鹿児島へ上陸しました。私は、ほんまに幼稚園から大学、兵隊でも軍医さんにかわいがられてね。そら幸せですわ。文楽入って覚えが悪いのに、みんな親切丁寧に厳しい稽古してくれはってね。ええ星の下に生まれてるのか、それは今思ったら結構でしたわ。

### —— 「大阪」への思い

文楽は大阪で生まれ育った芸やさかい、よそへ行ったらあきまへん。2つに分かれたときに、1つは東京へ来いという声もあったんですわ。そやけど、大阪から行くから東京の人が待ってて喜んでくれる。これ

がずっと東京にいついてしもうたらあきまへん。僕は大阪生まれの大阪育ちで、大阪生まれの大阪育ちの芸をやって、大阪で生まれたことを自慢にしてまんねん。大阪は暮らしよええところやなと私は思っています。

### —— 芸のゴールは見えてきましたか

大阪で22日間、東京で17日間毎日やって、同じようにはやれまへんねん。毎日決まったようにやってたら、テープ聴いたらいいのでね。日によって違いますわな。ほんまに得心して自分が今日はましやなというのは1日か2日でん。

お客さんの反応で、こっちの力を引き出してもらおうときがあるんです。客席と舞台が一緒になって、「あつ、もう今日済んだ」と思う日があるんですわ。今日びのお客さんはマナーがいいかして、みんな初めとしまいは手たたいてくれはる。若い者にね、「おまえ、手たたいてもろうたらええいうもん違うで。義理でたたいてはんねん。ああ、はよ済んでよかった思うて手たたく人もあるねん」「ほんまによかった、ああご苦労さんでしたっていうのは拍手の音が違うはずや。拍手の音で聞き分け」って言うんです。目の前で「お疲れさま、結構でした」ってお客さんは皆そない言いますわ。だから、そんなに乗るなど。べんちやら食はんあほはない。褒められたら褒められたで勉強し、腐されたら腐されたで勉強し、どっちに転んでも勉強せなあかんって。うぬぼれて天狗になったらあかん。

もつと勉強せんとあきまへん。あの世行っても稽古せな。死ぬまでかかってもええ芸はできまへん。死んでからも稽古に行かなあきまへん。そんだけ奥が深過ぎて難しいですわ。何事も最後はほんまに人間性でっせ。弁護士さんでも私らでも同じことでん。

(Interviewer: 阿部秀一郎/Photo: 武田)

### 公演案内

## いがごえどうちゅうすごろく 通し狂言 伊賀越道中双六

平成25年11月2日(土)~24日(日)※13日(水)は休演

第1部:午前10時30分開演/第2部:午後4時30分開演

チケット電話予約

10月3日(木)~

窓口販売開始

10月4日(金)~

お問合せ

チケットセンター 0570(07)9900